

「私と右足」

高松市立協和中学校 1年 なかがわ 中川 ひよりの 陽代里さん

私は、生まれつき、右足に病気をもっています。中学初めての夏休み、自分自身の右足に対する今までの経験を書こうと思います。

私の右足は「血管奇形」という血管の発生異常でできた病気でなぜ、かかるかは原因不明です。正常な左足に比べて長かったり太かったりします。見た目からもよく分かります。それらは痛さやかゆさなどいろいろな症状が現れます。成長と共に進行し、これからもずっと付き合っていかなければなりません。治るのはとても難しく、現在の医学ではまだ研究中のようです。

そんな私は幼稚園までに三回ほど手術したと母から聞きました。そして、小学校までは放課後リハビリ病院に通っていました。中学生になってからは下校時間が遅くなったため、通院リハビリができなくなり、家で母とのリハビリと飲み薬で毎日がんばっています。また、三ヶ月に一度は県外の病院に定期検診に通っています。県内には専門の医者がないので、いつも往復の時間をいっぱいかけて両親と通っています。

日常生活では特にすぐに困るということはないのですが、歩くのに時間がかかるので疲れます。

また、太い、長いなどの見た目と右足をかばうように歩いてしまう歩き方から、事情を知らない人たちからは、シロシロ見られたり、コソコソ話されたりします。時には、「大丈夫？ケガしたん？」

「かわいそうになぁ。」

「痛いん？」

など、声をかけられることもあります。今まで一番ひどかったのが

「ビッコひいとる。」

と言われたことです。本当にショックでした。私は人より、みんなより少し不自由だけど、大変だけど、「かわいそう」ではありません。ただ、歩くのに時間がかかるだけです。ただ、長い時間は歩けないだけです。

私は病気のため右足の方が長さが長く、ひざを曲げた状態が多いです。どうしても歩くときにそれをかばうようになってしまうのです。

しかし、悪いことばかりではありません。良いこともたくさんたくさんありました。重い物を持っていたら持ってくれたり、

「がんばってるね。」

と声をかけてくれたりする人もいます。だから、先生や友だち、今まで出会ったすべての人たちに感謝です。

今までの自分自身の経験から私は人の傷みのわかる、本当の優しさをもつ人間になりたい、なろうと思います。

また、この病気によって私は精神的にとても強く大きくなったと思います。これからも周りに負けずに、病気と戦っていきます。改めて病気のことを考えるよい機会になりました。